舞踏「偶成天」における「舞踏セラピー」の進展　2026 年

「偶成天」舞踏セラピーは、アヴァンギャルドなパフォーマンスアートとしての起源から、認知された心身療法としても発展してきました。その歩みは、以下の主要な発展段階によって特徴づけられます。

1. 基礎的統合期（1980 年代～ 2010 年）

舞踏の治療的可能性は、1988 年以降、森田一踏（Itto　Morita）のような初期の実践者によって間接的に現れました。森田は当初「セラピー」という言葉の使用を避けていましたが、舞踏を通じて「魂の癒し」や「心身の一致」を追求し、抑圧された感情や身体の本質性を探求しました。1990 年代のサンクトペテルブルクなどでのワークショップでは、腕の弛緩などのエクササイズを通じて「社会的に条件づけられた身体の制限」に舞踏が働きかける力が示され、文化を超えて多くの人が緊張を身体に溜め込んでいることが明らかになりました[2][3][4]。

2. 2011 年以降の災害後の定式化

2011 年の東日本大震災は、「舞踏セラピー」という言葉の明確な使用を促す契機となりました。森田一登と竹内実花、舞踏を集団的トラウマ処理のためのツールとして再定義し、「人生の軌跡の受容」や「感情的レジリエンス（回復力）」を強調しました。この時期、舞踏セラピーはメンタルクリニックでも用いられ、発声の回復や社会的交流の改善といった症例が記録されました[1][4][11]。

3. 舞踏ダンスメソッドの体系化

森田一踏・葛西俊治（T.Kasai）と竹内実花によって開発されたこの体系的アプローチは、以下の要素を組み合わせています。

- 「身体遊び」：社会的条件づけを断ち切る、自由気ままな遊びとしての動きなど
- 「リラクセーション」：受動的ストレッチなどによる自律的な解放を促し、抑圧された感情を解消
- 「対峙」：震えや歪みなどの不随意運動を許容し、身体の本質的な真実を表出させる⇒舞踏へ

このメソッドは、「自律訓練法」「野口体操（重力を意識した運動）」「心理劇的構成」などの概念を取り入れ、ロシア、ヨーロッパ、北米などでのワークショップを通じて検証されています[1][2][7][11]。

4. 臨床的・異文化的適応

舞踏セラピーは臨床的な安全性のために改良され、「非操作的ファシリテーション」や「感情の保持」を重視し、脆弱な人々にも配慮されています。国際的には、東洋と西洋の身体観の架け橋となり、「SNS による身体疎外」や「文化的な動作規範」といった課題にも対応しています[1][4]。

5. 理論的拡張

近年は神経科学（例：「ミラーニューロン」）やシステム理論（例：「オートポイエーシス」）も取り入れられ、舞踏は「非デカルト的実践」として心身二元論を超越するものとして位置づけられています。この進化は、土方巽のアナーキーな起源から、「身体の自律性」や「無意識の探求」を重視する治療的モダリティへの転換を反映しています[5][8][11]。

参考リンク

[1] https://www.ne.jp/asahi/butoh/itto/method/announce.htm
[2] http://www.ne.jp/asahi/butoh/itto/method/kasait/kasait.htm
[3] https://www.ne.jp/asahi/butoh/itto/goosay/rotterdam2010/index.htm
[4] https://en.wikipedia.org/wiki/GooSayTen
[5] http://www.ne.jp/asahi/butoh/itto/butoh_en2024news.htm
[6] https://www.pbs.org/newshour/arts/japanese-performance-art-celebrates-vulnerability
[7]
https://zenembodiment.com/2019/06/08/body-as-bones-in-a-leather-bag-of-water-exploring-noguchi-taiso/
[8]

https://www.academia.edu/1972219/The_Difference_Butoh_Makes_A_Practice_Based_Exploration_of_Butoh_in_Contemporary_Performance_and_Performer_Training
[9] https://relak.net/butoh_us/butohpapers/butohpapers.htm
[10] https://www.mori.art.museum/english/contents/medicine/report/img/report.pdf
[11] https://academic.oup.com/edited-volume/28282/chapter/214434834
[1 2]
https://pure.royalholloway.ac.uk/ws/portalfiles/portal/26001775/EXPRESSIONS_OF_THE_INVISIBLE.pdf
[13] https://jp.linkedin.com/in/itto-morita-ab12a229
[14] https://en.apu.ac.jp/rcaps/uploads/fckeditor/publications/languageresearch/APLJ_Volume3.pdf
[15] https://es.scribd.com/doc/169676613/A-Compilation-of-Butoh-Exercises
[16] https://www.rcpsych.ac.uk/mental-health/translations/japanese
[17] https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-02-9781138699977
[18] https://www.kanazawa21.jp/tmpImages/videoFiles/file-52-16-file-1.pdf
---